

國學院大學學術情報リポジトリ

プロジェクト活動紹介

デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 順孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001837

「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」

プロジェクト責任者 井上順孝

1. プロジェクトの概要

本プロジェクト「デジタル・ミュージアムの運営および教育への展開」は、「デジタル・ミュージアムの構築と展開」(2007～2009年度)、「デジタル・ミュージアムの運営と関連分野への展開」(2010～2012年)の両プロジェクトを継承し、2013～2015年度の三年計画で始められたものである。以下では、本プロジェクトの初年度となった2013年度の成果を紹介した後、2014年度の計画について概要を記したい。

本プロジェクトには、これまでのプロジェクトと共通して大きく二つの柱がある。一つは、2009年から運用が開始された「國學院大學デジタル・ミュージアム」(<http://k-amc.kokugakuin.ac.jp/DM/>) について、研究開発推進機構内の諸機関や図書館などと連携しながらその円滑な運営を図り、使いやすさやシステム面の改善を進めることである。もう一つは、プロジェクト独自の調査・研究を進め、それに基づく資料・データの収集や分析をした上で、それらをデジタル・コンテンツとして研究・教育に資するように公開していくことである。

さらに本プロジェクトでは、これまでに整備・展開がなされてきたコンテンツの蓄積を、宗教文化に関わる教育活動を充実させるために活用・還元していくという側面を特に重視している。

この点については、本プロジェクト代表者である井上順孝を研究代表者とする科学研究費補助金基盤研究 (B)「宗教文化教育の教

材に関する総合研究」(2011～2014年度)、ならびに「宗教文化士」資格の認定制度の運営を担う「宗教文化教育推進センター」(CERC、サーク、本研究所内に設置)との緊密な連携を取りながら進めていくものである。

2013年度の本プロジェクトメンバーは以下の通りであった。

責任者 井上順孝
分担者

専任教員：平藤喜久子、星野靖二、塚田穂高、鈴木聡子

兼任教員：ノルマン・ヘイヴンズ、黒崎浩行、斉藤こずゑ

客員研究員：市川収、カール・フレーレ

PD 研究員：李和珍、加藤久子

研究補助員：天田顕徳

客員教授：ケイト・ナカイ、土屋博、星野英紀、山中弘

共同研究員：ヤニス・ガイタニディス、キロス・イグナシオ、市田雅崇、今井信治、小堀馨子、野口生也、村上晶、山梨有希子

2. 2013年度の成果

(1)「國學院大學デジタル・ミュージアム」の運営

2009年より運用されているデジタル・ミュージアムについては、すでに基本部分が確立されているが、さらなる改善、とくに利用者の使いやすさの向上という観点からの改

善を図るとともに、コンテンツの充実に力を注いだ。

機構内他機関の担当者、システム担当者、ソフト提供会社の担当者、機構事務課・広報課等とともに、「デジタル・ミュージアム・ワーキンググループ」会議を定期的に関き、課題の共有と改善案の検討を継続的に行った。

2013年度には特に、データベース数の増加（現在25件を公開）に対応して、デジタル・ミュージアムのトップページの改善を進めた。

また、教材開発の推進の観点からは、スマートフォンアプリを活用したコンテンツ公開・発信が複数試みられた。すなわち、様々な地図を表示するアプリ「ロケスマ」（デジタルアドバンテージ社）上で、デジタル・ミュージアム内の「神道・神社史料データベース（現代）」に基づく「全国神社マップ」が公開されるなどした。全国神社マップは現在約1,500社が対象となっており、今後逐次増やしていく予定である。

いくつかのデータベースについては、機構内他機関の担当者からの要請を受けて、入力・公開や改善作業の支援を行った。

全体的には、「教育への展開」を掲げたプロジェクトの初年度として、アクセスのしやすさ・授業等での利用のしやすさを基本方針として確認し、これを具体的に実現することに努めた。

(2) プロジェクト独自の調査・研究等

◇日本宗教学会第72回学術大会公開学術講演会「ネットワークする宗教研究」の共催

2013年9月6日には、國學院大學学術メディアセンター1階の常磐松ホールにおいて、公開学術講演会「ネットワークする宗教研究」が開催された（※本号トピック「公開学術講演会「ネットワークする宗教研究」」を参照）。主催は日本宗教学会で、日本文化

研究所が共催した。講演会は9月6～8日に本学で行われた日本宗教学会第72回学術大会に合わせて企画されたものだが、同時に日本文化研究所が毎年行っている国際フォーラムに相当する国際会議としてこの講演会をあたえた。

同講演会では、14時40分～17時40分の3時間にわたり、3名の講演があった。講演者とタイトルは以下の通りである。

- ・Michael Witzel氏（ハーバード大学教授）
“Out of Africa: Tracing Early Mythologies by a New Approach, Historical Comparative Mythology”
- ・長谷川真理子氏（総合研究大学院大学教授）
「進化生物学から見た宗教的観念の心的基盤」
- ・芦名定道氏（京都大学教授）
「現代の思想状況における宗教研究の課題—キリスト教研究の視点から—」

司会：井上順孝（國學院大學）

二百数十名の来場者があり、これからの宗教研究における多分野・多領域にわたるネットワーク構築の重要性が示された内容となった。

講演会の内容を編集したものが、精神文化映像社の厚意により10月30日にスカイパーフェクトTVの216チャンネル（精神文化の時間）で1時間番組として放映された。また、同講演会の内容をもとに、描き下ろしの部分を加えた書籍が、井上順孝編『21世紀の宗教研究—脳科学・進化生物学と宗教学の接点—』（平凡社）として2014年8月に刊行された。

◇国際研究フォーラム「日常生活と宗教文化：戒律をめぐる問題を中心に」の開催

2014年2月13日には、國學院大學学術メディアセンター5階会議室06において、本研究所の主催、科学研究費補助金基盤研究

(B)「宗教文化教育の教材に関する総合研究」の共催によって、国際研究フォーラム「日常生活と宗教文化：戒律をめぐる問題を中心に」が開催された（※本号トピック「国際研究フォーラム「日常生活と宗教文化：戒律をめぐる問題を中心に」」を参照）。

同フォーラムは、13時から17時30分の間、4名の発題とコメント、討議が行われた。発題者と発表のタイトル、コメンテーター、司会は以下の通りである。

・[基調講演] ジュリア・イブグレイブ (Senior Research Fellow, Warwick Religions and Education Research Unit, Centre for Education Studies, University of Warwick, England)

・アンキタ・ジャイン (東京大学大学院)

「発題：インド宗教をめぐる」

・野田ドリット

「発題：ユダヤ教をめぐる」

・クレイシ・ハールーン (ジャパン・イスラミック・トラスト)

「発題：イスラームをめぐる」

・コメンテーター：小田淑子 (関西大学)

・司会：井上順孝 (國學院大學)

宗教文化を教育・学習する際の注意点などについて、活発な質疑応答が交わされた。

◇ EOS の拡充

2013年度には、英文のオンライン神道事典 Encyclopedia of Shinto (EOS) の充実・改善作業が継続して進められた。

アップロード済みの本文内容をチェックし、統一性・整合性を確保する作業については、年度を通じて継続的に実施された。

付録としての年表については、簡易版の作成が行われ、ベータ版がアップロードされている。全訳にあたる詳細版についても、校閲作業が進められた。

EOS 本文の一部の韓国語への翻訳も予定

通り進行した。「第四部 神社」はアップロードされ、「第八部 流派・教団と人物」(計180頁程度)は翻訳が完了し、校閲作業を行い、アップロードの準備が整えられた。

◇ 双方向論文翻訳

本プロジェクトでは、神道・日本文化に関する優れた研究を国際的に発信するため、また海外の研究を日本に紹介するために、日本語から外国語、外国語から日本語への「双方向論文翻訳」を行って、ウェブで公開する事業を進めてきている。

2013年度には、次の3論文を選定して翻訳を行った。日本語から英語へのものが1点、英語から日本語へのものが2点である。

日本語から英語へ翻訳された論文

・井上寛司「中世神社史研究の課題—“顕密体制論”の批判的継承・発展のために—」(英訳 Unresolved Issues in the Study of Medieval Shrine History: for a critical inheritance and further development of the “*kenmitsu taissei theory*” 翻訳者：SWANSON, Eric)

英語から日本語へ翻訳された論文

・NAKAI, Kate W., “Coming to Terms with “Reverence at Shrines”: The 1932 Sophia University–Yasukuni Shrine Incident” (邦訳：「神社参拝」と向き合う—1932年上智大学靖国神社事件—」 翻訳者：冨澤宣太郎)

・McGuire, Mark P. “What's at Stake in Designating Japan's Sacred Mountains as unesco World Heritage Sites?: Shugendo Practices in the Kii Peninsula” (邦訳：日本における霊山のユネスコ世界遺産化に関わる問題—紀伊半島における修験道の実践—」 翻訳者：黒田純一郎)

◇教派神道及び神道系新宗教の教団基礎資料のデジタル化と公開

これまで本研究所で収集してきた教派神道（神理教・神道修成派など）ならびに神道系新宗教関係の文書資料については、デジタル化作業を進めてきた。2013年度には、神道系新宗教関係のものを中心にデジタル化作業と公開用メタデータの整備作業が進められた。神理教関係のデータの公開を継続していくにあたり、神理教大教庁（北九州市小倉南区）に赴き、巫部祐彦管長との打ち合わせを行い、今後の方針について了承を得た。

◇現代宗教に関する資料・データの収集とデータベース構築ならびに公開

宗教文化推進センター事業、ならびに前述の科学研究費補助金基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」と連携する形で、宗教文化の教育と学習に資するための現代宗教に関する資料・データの収集とデータベースの構築が進められた。

具体的には、すでに公開されている「博物館と宗教文化」「宗教文化を学ぶための基本書案内」「世界遺産と宗教文化」データベースの充実化の作業が集中的に行われた。また、「宗教文化に関係する基本用語クイズ」（三択形式）も300題あまり作成され、公開された（いずれも宗教文化教育推進センターのサイト（<http://www.cerc.jp/>）を参照）。また、「博物館と宗教文化」「世界遺産と宗教文化」については、前述の地図アプリ「ロケスマ」上でも公開が開始された。

◇科学研究費補助金基盤研究（B）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」との連携

本プロジェクト責任者の井上順孝を研究代表者とする本科研費研究には、本プロジェクトメンバーの黒崎浩行、平藤喜久子、星野靖二、塚田穂高が連携研究者となって研究を進めている。また、本学神道文化学部の西岡和

彦、加瀬直弥も連携研究者となっており、教員間でのネットワーク形成を図っている。

2013年度には、同科研ならびに「宗教と社会」学会の「宗教文化の授業研究会」プロジェクトと連携して、2014年1月19日に霊友会（東京都港区）の見学研究会が実施された。詳細については、下記の同科研サイトを参照（<http://www2.kokugakuin.ac.jp/erc/index.html>）。

3. 2014年度の研究計画など

◇「國學院大學デジタル・ミュージアム」の運営

デジタル・ミュージアムの運営については、ワーキンググループ会議におけるメンバー間の情報共有・意見交換をより密に行い、システムと使いやすさの改善・整備を図っていく。

特に2014年度は、國學院大學博物館が中心となり平成26年度文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に申請した「東京・渋谷から日本文化を発信するミュージアム連携事業」が採択され、現在各種の事業進められている。連携事業で収集された資料の公開、事業成果の公開などは、本デジタル・ミュージアムの作業とも大きく関わるので、連携を強化しながら事業を進めていく。日本文化研究所は宗教文化教育の推進という観点から若手育成や公益財団法人・東洋文庫との連携による研究などを推進に力を注ぐ。

また、本デジタル・ミュージアムのコンテンツが広く利用されるためには、本学・本機構、ならびにデジタル・ミュージアムの入口となる英語版サイトの改善・再構築が急務となっている。その検討・構築作業も集中的に中心となって行っていく。

◇EOSのチェックと改善

EOS本文の改善作業は、ネイティブチェックを中心に継続していく。

年表の英訳が終了したので、これをPDFとしてアップロードする。また簡易版については、さらに使いやすさを改善していく。

韓国語訳「第八部 流派・教団と人物」のアップロードを行い、表示のチェックを進める。

EOSはもとの『神道事典』の本文、資料篇のほとんどが英訳され、公開されることになるので、広く国内外で利用してもらうため、内外の研究者・研究機関への広報活動を積極的に行っていく計画である。

◇双方向論文翻訳

神道・日本文化に関する論文の双方向翻訳については、2014年度も4本程度の論文の翻訳を予定している。

また、利用しやすさ、ならびに各ファイル情報管理の改善を進める。

◇教派神道及び神道系新宗教の教団基礎資料のデジタル化と公開

デジタル・ミュージアム内の「教派神道関連資料データベース」において、神理教・神道修成派・神道系新宗教関係資料のコンテンツの充実化に取り組む。

◇教育への活用の重視

継続して宗教文化教育推進センターと連携して、教材作成を進める。具体的には宗教文化士試験の過去の試験問題について解説を付していく。また、2014年11月16日に第7回が実施予定の宗教文化士認定試験（第6回は6月29日に実施済み）事業などに、本プロジェクトも協力していく。

科研費研究(B)「宗教文化教育の教材に関する総合研究」は最終年度を迎えるので、その総括の事業に本プロジェクトも関わっていく。

◇国際研究フォーラムの開催

2014年度は、9月27日に國學院大學渋谷キャンパス学術メディアセンター1階常磐松ホールにて、国際研究フォーラム「ミュージアムで学ぶ宗教文化—デジタル時代のチャレンジ」が計画され、実施された（※内容の報告は2015年度に刊行される『國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所年報』第8号に掲載の予定）。